FGC NEWS

No.10 March 2017

公益財団法人 世界こども財団
FGC−Foundation for Global Children

海外支援・交流活動

- エリトリアから留学生２名が来日
- ヤレド選手、福岡国際マラソン出場
- ブータンオリンピック委員会と事前キャンプ協定書仮調印
- 宮澤保夫副理事長がミャンマーを訪問
- SEISA Africa・Asia Bridge 2016 を開催

東日本大震災支援活動

- 震災から６年　続く支援
- 相馬市でのサッカー交流実施
- 北の大地に会いに行こう 2016 冬

エリトリアの留学生が来日しました！スポーツを通じて広がる夢

日本でトレーニングをし、学び、同世代の日本の生徒たちと生活をする経験を通して、スポーツだけでなく、エリトリアのこどもたちの夢を広げ、エリトリアと日本の友好をさらに深めていく。これまでも多くの青少年アスリートを日本に招いてきましたが、いよいよ、長期の留学生が日本にやってきました。

2017年1月19日、エリトリアからアヌール君とデジェン君が来日しました。二人は4月から星槎国際高等学校の陸上専攻の留学生として、日本の学生と共に勉学とスポーツに励みます。遠く離れたエリトリアからやって来た彼らにとって、日本での生活は全てが珍しく驚きの連続です。寮生活では友達と一緒にお風呂に入るという、エリトリアではあり得ない事も体験し、早速日本のお風呂の良さのとりこになりました。日本の食事も、色々なものにチャレンジしています。高校入学までの3ヶ月の間に、二人は一所懸命日本語の勉強をし、少しでも早く日本の生活に馴染めるよう努力しています。星槎国際高等学校の生徒の皆さんの暖かい歓迎に、彼らは心を開き、早く友達になりたいとワクワクしているようです。（FGC　小野木愛）

左からアヌール君、留学生に同行したエリトリア陸上競技連盟のタデッセ事務局長、デジェン君

宮澤保夫副理事長と初めての面会

さっそく勉強にも熱心に取り組む二人
（星槎国際高等学校湘南学習センターにて）

世界こども財団と星槎グループでは、エリトリア国との東京オリンピック･パラリンピック大会へ向けての事前キャンプ協定調印をはじめ、スポーツを通じて、またスポーツを超えて、未来へむけ同国のこどもたちや若い世代の育成を支援する活動を続けています。

留学生より自己紹介

アヌール・モハメド・アタ君（17 歳）

僕はエリトリアでも、エチオピアの国境に近いデブブ地方から来ました。僕は日本の文化にとても興味があります。日本に来ることができて、とてもうれしく思います。陸上以外では、英語を勉強したり、スポーツについての映画を観ることが好きです。

デジェン・テスファレム・ウェルドゥ君（17 歳）

僕はエリトリア国ベリク地方から来ました。日本では沢山友達を作りたいです。星槎の陸上部でいっぱい練習をして、将来は優秀な選手になりたいです。趣味は映画を観たり、本を読んだりすることです。

アスリートとしての日々

二人共とても熱心で、とても真面目に練習に取り組んでいます。アヌール君には 800～1500m の中距離、デジェン君は 5000m などの長距離を中心に最適な種目を選び、それに適した練習をしていきたいと思います。

陸上部の生徒たちとともに、早速トレーニングに励む留学生の二人

八王子夢街道駅伝競走大会で区間賞を受賞したデジェン君（先頭左）

2017 年 2 月 12 日に開催された、第 67 回全関東八王子夢街道駅伝競走大会は二人にとってのデビュー戦となりました。一般、大学、高校合わせて 358 チームが競う中、陸上部はチーム SEISA として一般の部から参加し、総合 7 位という成績を収めました。その中でもデジェン君は先頭でスタートし、後続に 22 秒差をつけ、見事区間賞を獲得しました。この大会は、留学生の初の公式試合、初の駅伝と不安はありましたが、無事に試合を終えることができました。

選手達も襷（タスキ）を繋ぐことで、仲間としての絆がより強くなり、少しずつですがチームになってきていると感じました。この経験を次に活かしていきたいです。

（星槎国際高等学校湘南　陸上専攻監督　坂田和）

タスキをつないだ陸上専攻の仲間と
（左から瀬上君、デジェン君、大塚君、アヌール君）

エリトリアのヤレド選手 福岡国際マラソン出場！

世界こども財団・星槎グループの仲間であるエリトリアのオリンピアン、ヤレド・アスメロン選手が 2016 年 12 月に再来日しました。12 月 4 日（日）に開催された「第 70 回福岡国際マラソン選手権大会」に招待選手として出場し、9 位（2 時間 11 分 57 秒）という好成績を収めました。

福岡国際マラソンに出場したヤレド選手

こどもたちとの交流 ～日本とエリトリアの友好～

滞在中には東京オリンピック・パラリンピック大会でエリトリアのホストタウンとなっている神奈川県・小田原市・箱根町・大磯町と星槎グループが協働して行う交流事業「SKY プロジェクト」の一環として、小田原市の片浦小学校を訪問し、こどもたちと交流したり、箱根町駅伝に参加したりと、地域のみなさんとの交流を深めました。

また星槎グループのピーターパン幼稚園（静岡県三島市）を訪問し、餅つきに参加し、園児たちと楽しいひと時を過ごしたり、ティンクルくぬぎ坂保育園（川崎市）では、和太鼓演奏にチャレンジして、園児たちを笑顔にしてくれました。

ヤレド選手は、2017 年から星槎道都大学に留学します。星槎スポーツ親善大使にも任命され、両国親善のため引き続き活躍していただけることが期待されます。ヤレド選手と日本の関わりはますます深まり、ヤレド選手の活動を通してエリトリア・日本のこどもたちに夢を与え、両国の友好に貢献できるよう、世界こども財団も引き続き取り組んでいきます。

（FGC　小野木愛）

片浦小学校のこどもたちと交流

ピーターパン幼稚園での餅つき体験

ティンクルくぬぎ坂保育園での園児たちの和太鼓演奏

ブータンオリンピック委員会(BOC)と2020年事前キャンプに関する仮協定調印！

～組織的連携を本格化、ブータンの青少年育成を支援～

事前キャンプ協定書に仮調印を行なったBOC会長のジゲル・ウゲン・ワンチュク王子殿下と、宮澤保夫FGC副理事長（2017年2月）

2017年2月、宮澤保夫副理事長がブータンを訪問。神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町そして星槎グループを代表して、BOC委員長であるジゲル・ウゲン・ワンチュク王子殿下とともに、ブータンの2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける神奈川県での事前キャンプに関する協定の仮調印を行いました。

ブータン王国では、スポーツやスポーツに関する組織的な取り組みは、まだまだ発展途上にありますが、世界こども財団・星槎グループとブータンオリンピック委員会は、スポーツの持つ力、こどもたちに夢を与え健全な育成に寄与する可能性を信じ、お互いに協力関係を築いて来ました。

また、昨年12月には、BOCのソナム・カルマ・ツェリン事務局長はじめ委員会メンバーと、ブータンのアーチェリー連盟、射撃連盟、陸上競技連盟の関係者が来日、星槎箱根キャンパスや星槎レイクアリーナ箱根、県立伊勢原射撃場、城山陸上競技場、東海大学洋弓場など神奈川県の施設に加えて、味の素ナショナルトレーニングセンター、隣接する国立スポーツ科学センター等を視察しました。滞在期間中には、黒岩祐治神奈川県知事への表敬訪問や、小田原市加藤市長、箱根町山口町長、大磯町中﨑町長をはじめとする関係者を招いてのレセプションパーティーも実施。さらに、BOCと各連盟は、日本オリンピック委員会（JOC）、全日本アーチェリー連盟、日本ライフル射撃協会、日本陸上競技連盟を訪問し、今後の連携について話し合いました。

今後は王子殿下はじめBOC一行を日本に招いてのキャンプ協定本調印に向けて調整を進めるとともに、JOCや日本の各競技連盟との連携をいっそう進め、未来へと続くスポーツを通じたブータンの青少年育成のための支援を拡大していきます。

（FGC　石田博彰）

表敬訪問にて、ソナム・カルマ・ツェリンBOC事務局長と黒岩祐治神奈川県知事（2016年12月）

味の素ナショナルトレーニングセンターを訪問（2016年12月）

宮澤保夫副理事長がミャンマーを訪問

新政府との協働
～医療、スポーツ支援等、FGCの実績と今後への提案を評価～

2016年11月13日から23日の期間、宮澤保夫副理事長がミャンマーを訪問しました。今回は日本ミャンマー協会が企画した経済使節団の一員としての訪問でした。使節団には日本のトップ企業を含む60社、100名以上が参加し、アウン・サン・スーチー女史率いる新政権の閣僚との会談に臨みました。すでにミャンマー側と深い関係を築いている宮澤副理事長は、保健・スポーツ大臣との会合以外ほぼ単独行動となりました。

保健・スポーツ省トップのミン・トゥエ大臣とはすでに日本で会談していたこともあり、これまでFGCが行って来た救急車の寄贈、それに関連する病院・本部との移動通信手段の提案、学校を通じて地域の公衆衛生環境改善を目指すスクールヘルス・プログラムへの支援等の活動をよく理解し、高く評価していただいていました。そして両者の関係を更に深化させるため協力して行くことになりました。その一環で、更に救急車2台を寄贈するとともに、無線での通信網の実現を検討して行くことになりました。

併せて、ミン・トゥエ大臣がスポーツ行政のトップでもあり、ミャンマー・オリンピック委員会の会長も兼務されていることから、現在エリトリア及びブータンと進めている「スポーツ・コラボレーション覚書」及び2020年の東京オリンピック・パラリンピックの「事前キャンプ協定」をミャンマーとも進めたいとの提案をさせていただきました。大臣はスポーツが青少年の健全育成に果たす役割の大きさについてよく理解されており、また将来への夢をこどもたちに与える点でも重要であるとの考えをお持ちでした。宮澤副理事長が提示した覚書、協定書の両案についても高く評価し、政府として至急検討し、締結に向かって努力することを約束されました。これを受けてしかるべき時期にミャンマー・オリンピック委員会を中心とするスポーツ使節団を日本に招聘することとなっています。また、それに先立って、水泳、陸上、空手のナショナルチームコーチを日本から派遣して欲しいとの依頼があり、関係団体に協力をいただきながら、支援をスタートしています。

ミン・トゥエ保健・スポーツ省大臣との会談

大臣との会談後、経済視察団のみなさんと

サマタウン孤児院への支援

孤児院に併設の小学校を訪問

ネピドー近郊にあるサマタウン孤児院の支援を以前より続けて来ましたが、今回も前保健省副大臣のテイン・テイン・タイ女史とともに訪問し、寄付を行いました。孤児院は現在 700 名以上を収容し、小学校を併設するまでに大きくなっていました。母体の寺院からばかりでなく、政府の支援も入るようになっているため、建物・設備的には整いつつありました。今の課題は寄付・支援に頼るばかりでなく、孤児院に付属する広大な農地を活用して、孤児の生活そして孤児院の自律的運営を確立して行くことが求められています。したがって、FGC としては今後この分野での支援を中心に息の長い関わりを継続して行くことになります。

（FGC　小泉博）

生後すぐに引き取られ、孤児院で生活するタンくん（2 歳）と

サマタウン孤児院のこどもたちと（写真右はテイン・テイン・タイ元保健省副大臣）

知繋（ちけい）
～知ること、つながること、仲間になること～

SEISA Africa･Asia Bridge 2016を開催!

未来を担うこどもたちが、これからの世界のあり方を「SEISA Africa・Asia Bridge Student 宣言 2016」として発表しました

第２回となるSEISA Africa・Asia Bridge（SAAB）が、2016年11月12日（土）、13日（日）に開催されました。今回は開催日を２日間に拡大し、さらにアフリカだけでなくアジア・太平洋地域も含め、大使館関係13カ国、その他16カ国、日本を含めて30カ国が参加する盛大なフェスティバルとなりました。今回は「知繋（ちけい）」がコンセプト。辞書にはない、知ること、繋がること、仲間になることを表現する言葉です。期間中、5,800人もの皆様にご来場いただきました。世界こども財団は主催団体のひとつとして、企画・運営に携わったほか、前回に続きブースを設置し、活動紹介を行いました。

開会式で挨拶する清水竜一理事長

さらに、SAABに合わせて元WHO世界ハンセン病対策プログラムでチームリーダーとして活躍された医学博士、「バブさん」ことスマナ･バルア先生が来日。バブ先生は昨年から星槎大学の特任教授となり、世界こども財団を通じてこどもたちへの特別授業を行なっています。SAABでは、一日目のフィナーレに「知繋プロジェクト」として、会場の星槎中学高等学校と、バングラデシュのアグラサーラ孤児院をスカイプで接続。アグラサーラはバブ先生の出身地でもあり、世界こども財団では（株）矢部プロカッティングと協働し、

地域に雇用を生みこどもたちが手に職をつけるための縫製工場プロジェクトを進めています。大きなモニターごしに、日本とバングラデシュのこどもたちが挨拶をかわし、それぞれの国の歌を交換し、最後に「幸せなら手をたたこう」を一緒に歌いました。アグラサーラのこどもたちはこの日のために日本語の歌を練習してくれていたのでした。情報技術の発展によって、遠い国にいても私たちの距離は近くなっているということを実感できた時間でした。

FGC ブースでの活動紹介

生徒からの質問に答えるスマナ・バルア先生（左）、色平哲郎先生（右）

グランド・フィナーレでメッセージを送る宮澤保夫副理事長

食、ダンスや音楽、アートといった様々な文化交流のプログラムを実施

二日目には、「バブさんと色平先生と語ろう　もっと知りたいアジアの医療と教育」というプログラムも実施。世界こども財団の評議員であり、佐久総合病院地域ケア科医長の色平哲郎先生にもご参加いただき、生徒たちがアジアの医療や教育について学ぶなかで疑問に感じたことについて、両先生の世界各地での豊富な経験からお話いただきました。

その他にも、外務省アフリカ部の丸山則夫部長による講演、各国の歌やダンスのパフォーマンス、生徒による発表、食を通して世界を身近に感じるコーナー等、盛りだくさんの二日間で、来場の皆様にも、アフリカやアジアの多様性を感じていただくことができました。

アフリカ、アジアの国々、そして日本全国に関わり合いの輪をひろげ、SAAB はこれからも続いていきます。

（FGC　石井洋祐）

つづく支援 広がる交流

震災直後から現在まで約６年間、そして今後も、世界こども財団と星槎グループでは東日本大震災支援活動を継続していきます。教育環境支援班ではこどもたちだけでなく保護者や先生方の気持ちに寄り添うカウンセリングを、医療支援班では放射線説明会や健康診断を定期的に実施しています。2016 年５月には、震災から５年を経過した現状を報告する「こどもと震災復興　国際シンポジウム」の開催を支援しました。また、活動の拠点としての「星槎寮」での医療従事者やボランティア等の宿泊受け入れも 5,000 人を超えています。

2016 年 9 月までの活動実績

教育環境支援班	カウンセリング等 （生徒児童、教員、保護者等対象）	約 8,500 人
医療支援班	放射線説明会 （一般市民、教員、医療関係者等対象）	約 3,400 人
	健康診断、健康相談等 （一般市民対象）	約 4,400 人

サッカー交流支援 2017 冬

～相馬市で星槎奥寺カップ、サッカー教室開催～

年に３回実施している福島県相双地区のこどもたちへのサッカー支援活動。今年度の第３回は、2017 年１月 14 日（土）・15 日（日）の二日間に渡って開催しました。神奈川県サッカー協会の大野真さん、そして星槎国際高等学校湘南学習センターマイスターでもある奥寺康彦さんのご指導で、サッカー教室、指導者講習、そして「星槎奥寺カップ 2016」を行いました。東京大学から学生ボランティアも参加し、たくさんのこどもたちの笑顔が生まれた二日間となりました。　（星槎グループ　小柳浩二）

奥寺康彦マイスターから指導

「星槎奥寺カップ」で競い合うこどもたち

指導者の土屋美加さんによる恒例の保護者向けヨガ教室も実施

北の大地に会いに行こう 2016年冬のプログラムを実施しました

「北の大地に会いに行こう」は、東日本大震災後に、こどもたちが持っていた「外で遊びたい」という思いを受け止めて、北海道の大自然のなかでのびのびと活動するプログラムとしてスタートしました。世界こども財団を中心に東日本大震災・避難者受入支援事業として開始し、芦別市より多大な協力を得て、福島県相馬市の小学生を招き、初めて会う友達が多い中、笑顔で活動してきました。5年目の今回は2016年12/23日（金）～29日（木）の行程で、総勢39名の参加となりました。行きのフェリーでは悪天候の影響で船が大きく揺れ、予定よりも遅れて北海道に到着しましたが、北海道の雪に接したとたん大興奮、バスに乗るまでに雪まみれになった子もいました。芦別までの道のりも、この数日間の豪雪の影響で道が混雑していましたが、見たことの無い大雪に到着までバスの中は賑わっていました。

最初のプログラムは各班に分かれてクリスマスケーキ作りを行いましたが、それぞれの班で工夫をしながら世界で1つだけのケーキを作れたことで、他のグループに自分たちのケーキを見せ合いながら盛り上がりを見せました。その日の午後からは、「北海道の雪を体験しよう」のプログラムで、雪像づくりや雪合戦を行い、汗だくになるまで熱中、時間を忘れて楽しみました。

メインプログラムでもあるスキー実習では、スキーが初めてのこどもたちがほとんどで、全然滑ることができなかったこどもたちも、一日練習することで最後にはリフトに乗り、自由自在に降りてこられるまで上達することができました。

また、星槎国際高等学校の本部校の生徒会が企画したプログラムである「羊毛クラフト」と「ミニミニ運動会」を実施しました。羊毛クラフトは、本部校の高校生たちが春に星槎の農場実習先である「星の島」の羊の毛刈りをした時の毛を利用し、かわいい雪だるまのマスコットを作成し、自分の鞄につける子も出てくるなど、大満足の仕上がりでした。午後の「ミニミニ運動会」では「しっぽ鬼」や「リレー」「ドッヂボール」など、白熱した戦いが繰り広げられ、優勝したチームのリーダーはこの企画一番の笑顔を見せてくれました。

芦別での最後の昼食は北海道名物の豚丼や芦別市の職員の方々が焼いてくださったタコ焼き、星槎のシェフによるパスタなど、メニューは盛りだくさんで、北の大地に会いに行こうにご協力くださった皆様も含めて大昼食会となりました。

今回も6泊7日、事故なく笑顔あふれる「北の大地に会いに行こう」となりました。ご協力くださった皆様、ありがとうございました。

（星槎国際高等学校仙台学習センター　浪岡俊史）

高校生との「ミニミニ運動会」を終えて記念撮影

クリスマスケーキづくりにチャレンジ

事務局より

2017年度　個人会員・法人会員を募集しています

世界こども財団の活動は、みなさまのあたたかい心に支えられています。

こどもたちの未来づくりのため、ご参加とご協力をお願い申し上げます。

賛助会員

個人会員 年会費　6,000円/一口
法人会員 年会費　120,000円/一口

ご寄付

世界のこどもたちに、将来の夢と希望を！
金額を問わず、随時受け付けております。

詳しくは、世界こども財団のホームページ http://www.fgc.or.jp または、
お気軽に事務局（電話番号 **0463-74-5359**）までお問い合わせください。

2016年9月～2017年1月「寄付モノ・寄付コラボ商品」の報告

寄付モノ	（円）	寄付コラボ商品	（円）
本	66,910	大磯 CA　トイレットペーパー納品より	7,520
櫻井幸雄氏作カレンダー販売収支差額より	30,000	大磯 CA　茶綿手ぬぐい、竹販売収支差額より	6,500
カード類（テレカ・図書カード・各種金券等）	2,500	自動販売機（メーカー 19 社）　売上より	1,018,348
合　計	99,410	合　計	1,032,368

全国の皆様のご厚志でこんなに寄付が集まりました。心より御礼申し上げます。　（2017 年 1 月末）

ご協力いただいている企業・団体様（順不同）　2016 年 9 月～ 2017 年 1 月

●アマチュア無線関係の皆様 ●㈱ルミネ ●㈱ルミネクリエーツ ●オリックス㈱ ●神奈川県立がんセンター ●フルサワ印刷㈱ ●公益社団法人大磯町観光協会 ●㈱スペースクリエーター天使の卵基金 ●パークサイド平塚 GGC ㈳日本ミャンマー協会 ●国際ソロプチミスト二宮 ●㈱ DOE ●教育出版㈱ ●横浜リテラ ●㈱バリューブックス ●㈱湘南ウイル ●㈱ダイドードリンコ ●西武商事㈱ ●コーシンサントリービバレッジ ●㈱八洋府中営業所 ●コカ・コーライーストジャパン㈱ ●コカ・コーラウエスト㈱ ●北海道コカ・コーラボトリング㈱ ●東京キリンビバレッジサービス㈱ ●北海道キリンビバレッジサービス㈱ ●キリンビバレッジバリューベンダー㈱ ●北海道ベンディング㈱ ●㈱ベネフレックス ●ユニヴァーサル商事㈱ ●㈲安田コーポレーション ●大蔵屋商事㈱ ●ＦＶイーストジャパン ●合同会社ＳＶ北陸 ●国際デュアルビジネス専門学校 ●ヴェリダブル事務所 ●認定 NPO 法人 JKSK 女性に活力を社会の活力に ●神奈川県庁 ●大磯ロータリークラブ ●大磯町役場

その他、個人、企業の皆さまから多大なるご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

表紙の写真
上から ●陸上部でトレーニングに励むエリトリアの留学生 ●事前キャンプ協定の仮調印を行なったブータンオリンピック委員会会長ジゲル・ウゲン・ワンチュク王子殿下と宮澤保夫副理事長 ●ミャンマーの孤児院のこどもたちを訪ねて ● SEISA Africa・Asia Bridge 2016 オープニングセレモニー ●北の大地に会いに行こう　星槎国際高等学校本部校にて

2017 年 3 月発行
公益財団法人 世界こども財団
〒 259-0111　神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2（星槎グループ内）
TEL. 0463-74-5359　FAX. 0463-74-5374　E-mail: fgc@fgc.or.jp
ホームページ：http://www.fgc.or.jp　Facebook：「世界こども財団」で検索！
印刷：フルサワ印刷株式会社　制作：岡村直実（JC ユニット）